

## 平成 29 年度 第 3 回古賀市図書館協議会会議録

会議名称：平成 29 年度第 3 回古賀市図書館協議会

日 時：平成 29 年 10 月 17 日(火)14 時～15 時 30 分

場 所：古賀市役所第一庁舎 4 階第 2 委員会室

主な議題：①平成 29 年度前期（4 月～9 月）事業報告  
②古賀市立図書館の今後の運営について

傍聴者：0 名

出席者：橋本 由里委員 檜山 みどり委員 鈴木 章委員 河村 正彦委員  
村山 美和子委員 渋田 京子委員 久池井 良人委員 石丸 貴子委員  
以上 8 名

欠席者：0 名

事務局：5 名

配布資料：①レジュメ

②資料 1 平成 29 年度事業報告（4 月～9 月）

③資料 2 平成 25 年度～29 年度 図書館の利用状況（4 月～9 月）比較

④第 23 回 図書館まつりチラシ

⑤平成 29 年度図書館要覧

⑥第 3 次古賀市子ども読書活動推進計画

### 1 開会のことば

（事務局） 資料の確認をさせていただきます。レジュメ、資料 1 平成 29 年度事業報告（4 月～9 月）、資料 2 平成 25 年度～29 年度 図書館の利用状況（4 月～9 月）比較、それから緑色の封筒に「平成 29 年度図書館要覧」、「第 3 次古賀市子ども読書活動推進計画」を入れさせていただきますにお願いしておりました。最後に、「第 23 回図書館まつり」のチラシを 5 点用意させていただきます。不足はございませんでしょうか。

本日も第 2 委員会室にて会議を進めさせていただきます。本会議につきましては、会議の公開制度に基づきまして傍聴席を設けております。会議の内容につきましては、古賀市のホームページ上に公開されますので、あらかじめ御了承いただきますようお願いいたします。会議の中での発言の際にはマイクのスイッチをオンにいただき、終わりましたらオフということで、よろしく願いいたします。スムーズな議事録作成のためにもご協力いただきますようお願いいたします。それでは、第 3 回古賀市図書館協議会を始めたいと思います。開会の言葉を文化課長の星野よりいたします。

（課 長） 皆さんこんにちは。文化課長の星野でございます。本日は、平成 29 年度第 3 回古賀市図書館協議会に御出席いただきましてありがとうございます。今回 10 月の開催となりますが、市役所は 4 月から 3 月までの年度で事業を実施しております。半年を経過いたしましたので、下半期の事業にこれから取り組みますとともに、来年度の事業を考える時期でもございます。今回の会議はそういった議事になっておりますので、どうぞよろしくお願いしたいと思います。前回、会長からも、公共図書館のあり方、学校図書館のあり方につ

いて、どのような図書館にしていきたいか、図書館協議会でもお話をしていきたいと思いますというお言葉をいただいております。

時代が刻々と変化する中で、変化するべきことと変化せずしっかり守っていくことの見きわめが難しいこともあるんですけども、委員の皆様の御意見を伺いながら、今後の図書館運営に活かしていければと思っております。どうぞ本日もよろしくお願いいたします。

## 2 会長あいさつ

(事務局) 続きまして、鈴木会長より御挨拶をいただきたいと思っております。

(会長) こんにちは。皆様の机の上に、「平成 29 年度 図書館要覧」と「第 3 次古賀市子ども読書活動推進計画」があると思います。要覧についてはこの古賀市図書館協議会、推進計画については古賀市子ども読書活動推進計画策定協議会で進めていったところがございます。計画が出来上がったということで、本当に関係の方々、スタッフの方々に感謝とお礼を申し上げたいと思っております。推進計画についてどのように具体化し、本当に実のあるものにしていくのかということが一番大事じゃないかなと思っております。

話は変わりますけれども、先日の全国図書館大会で、文藝春秋の社長さんが「図書館には文庫本を貸し出さないでほしい」とおっしゃったということです。出版社にとって、文庫本の売り上げは、ビジネスの考え方から言うととても良いんだそうです。今回のこういった発言は、出版業界のビジネスとはいえ、図書館に対する一つの物議を醸し出すような状況になってきたのではと思います。この辺りも含めて、新しい図書館づくり、あるいは今後の古賀市の図書館のあり方等に若干関わるんじゃないかと思っております。そのことも含めて、また会議を進めていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。以上でございます。

(事務局) ありがとうございます。

## 3 協議及び報告事項

### (1) 平成 29 年度前期 (4 月～9 月) 事業報告

(事務局) それでは協議に入ります。鈴木会長、久池井副会長、進行をよろしくお願いいたします。

(会長) それでは次第に沿って進めていきたいと思っておりますのでどうぞよろしくお願いいたします。今日は先ほどもありましたが、前期前半が終了したところで、図書館の前期の事業報告、4 月から 9 月までの様子について報告をしていただき、質問等があれば、そこで随時させていただきます。では、事務局よろしくお願いいたします。

(事務局) 平成 29 年 4 月から 9 月までの事業について報告をさせていただきます。

その前に、「平成 29 年度 図書館要覧」、「第 3 次古賀市子ども読書活動推進計画」、この二つをお配りしておりますので、御報告をさせていただきます。平成 29 年度の図書館要覧につきましては、前回 8 月に御協議いただきましてありがとうございました。御意見をいただいたところなどを整理しまして、修正できるところにつきましては訂正、加筆し、作成をいたしております。いろいろ御意見をいただく中で、今後の図書館運営について憂

える声もいただいております、今後の図書館運営に生かしていきたいと思っております。

「第3次古賀市子ども読書活動推進計画」につきましては、7月に定例教育委員会で議決をいただきまして、10月に発行ということで進めておりましたが、本日お配りすることができるようになっております。今後、行政や学校、読書ボランティアさんをはじめ、県内公共図書館などに配布をいたしますけれども、関係機関・団体などが連携・協力して、子どもの読書活動が一層進んでいきますよう、各領域での子どもの読書活動実施の指針として御活用いただけたらと思っております。「第3次古賀市子ども読書活動推進計画」につきましては、今後、この古賀市図書館協議会が進捗状況を管理しながら進めていくということにしておりますので、これから先も委員の皆様の御協力よろしくお願ひしたいと思ひます。なお、古賀市子ども読書活動推進計画策定協議会委員の皆様にも、本日の日付で送付をさせていただきたいと思ひしているところであります。

それでは、平成29年度9月までの事業報告、利用状況につきまして御報告をさせていただきます。資料の1を御覧ください。

4月から報告をさせていただきます。4月8日から16日の9日間、図書館マスコットのことちゃんの原画展をしております。図書館入り口の展示台及びパネルで展示し、来館者に楽しんでいただいたところであります。

4月23日は全国的に子ども読書の日となっておりますことから、22、23日に「子ども読書の日イベント」を開催しております。

「お楽しみ貸出し」は、6種類、119セットを作りまして、貸出しをしたところであります。

読書ノートにつきましては、借りた本のリストをシールでお渡しできるようになりましたので、読書ノートに貼って使っていただきたいということで、この子ども読書の日に合わせて配布をしたところであります。600冊用意したんですけれども、夏休みの半ばには全てなくなつたということで、とても好評でした。

「どようおはなし会プラス」ということで、ふだんのどようおはなし会にプラスしてお父さんの読み聞かせとストーリーテリングをしていただきました。子ども達は集中して話を聞いておりました。これは44名の参加でした。

「本とあそぼう全国訪問おはなし隊」では、絵本をのせたキャラバンカーがやってきまして、自由読書とスタッフが企画したおはなし会を楽しみました。79名参加いただいております。

「はじめての子ども落語」ではアマチュア落語家の粗忽家酔書さんをお迎えしまして、落語と紙切りを見せていただきました。図書館で落語は初めての取組でしたが、46名の参加がありました。

4月の中旬から5月の中旬にかけては、2年目となります、新1年生の読書ノート配布とおはなし会をしております。市内の小学校へ司書が出向きまして、希望の学校には着ぐるみのことちゃんと一緒にいきまして、おはなし会と、ノートをお届けしております。

6月には、読書ボランティア講座「絵本の力」を届けようと題しまして、1回目が講演、2回目が実演ということで、子どもの本の専門店エルマーの前園敦子さんに来ていただきまして、のべ39人にお越しいただいたところであります。

7月2日、「大人のためのおはなし会」を実施しております。古賀子どもの本の交流会の皆さんに来ていただひてお話をさせていただきました。参加者が19人と少なかったんですけれども、終了後のアンケートでは参加してよかったという声もいただひております。

7月23日は「おはなし会スペシャル」、例年取り組んでいるんですけれども、市内の地域文庫6団体に集まっていたきまして、それぞれの地域文庫さんから出し物をしていただいております。大型絵本の読み聞かせ、ストーリーテリング、工作などで楽しんでいただきました。89名の参加がっております。

「古賀市中学生読書サポーター養成講座」は7月28日、8月9日、22日と、3日間行っております。今年度はブックトークをメインにしまして、福岡県立図書館ブックトークボランティア「本の楽しさお届け便」の講師に来ていただき、ミニブックトークの技法を学びました。習得したことを生かし、学校での活躍を期待しているところです。

7月30日には「図書館で学ぶがんシリーズ 肺がん診療の現状」ということで、東医療センターがん支援センターと共催で初めて講座を行いました。参加人数は36名となっております。参加者は本当に熱心に話を聞かれておりました。個別相談も設けまして、4組の方が利用されました。帰り際に、また講座を開催してほしいと要望もありまして、有益な講座になったと思っております。

8月、夏休みに「小学生向けおはなし会」を3回実施しております。どうやおはなし会もありますけれども、就学前の子ども達が多いということで、小学生に向けたおはなし会を長期休みに実施しまして、23名の参加がありました。

8月2日は「子ども1日図書館員」を行いました。古賀市内の小学生6人が参加して、図書館の見学あるいはカウンターなどの業務体験をいたしました。

8月19日、「親子でラジオ作り」を実施し、35組、70名の親子の参加でございました。福岡県電波適正推進協議会推進員の方に6名おいでいただき、教えていただきました。

9月24日は、暮らしの講座「野菜づくりのコツと裏ワザ その3」を行いました。昨年度初めて暮らしの講座を開催しまして人気の講座となりました。第3回目の今回は人気の野菜の育て方について、後半は、講師が所属されています農山漁村文化協会のデータベース、ルーラル電子図書館を古賀市立図書館に導入しておりまして、そのデータベースを使いながら、質問を受けて回答されました。講座で紹介された本や雑誌、DVD等も多く借りられ、図書館のデータベース活用を促進する取組になったのではないかと考えております。

9月30日、「英語でおはなし会」を実施いたしました。古賀市の外国語指導助手、サイファート・サラ先生に来ていただきまして、英語で絵本を読んだり、先生の出身国であるアメリカ合衆国アラスカ州の手遊びなどを紹介いただいて遊びました。こがめルームいっぱい、87名の参加者がありまして、御要望が多いおはなし会だったのだなということを改めて感じたところです。

下のほうには月例の行事としまして取り組んだことと参加者について書いております。どうやおはなし会687人、赤ちゃんおはなし会264名、小さい子のおはなし会122名、セカンドブックおはなし会38名でした。セカンドブックの引換ですけれども、今年度は3歳児健診の会場で健診が終わりまして親子さんからお渡しています。8月までに219名に御案内して、191名来ていただいておりますことから、87%の配布率となっております。名画会168名、子ども映画会81名、ブックスタート260名です。

今年度から学校図書館市民開放用の一般図書の配本をしておりますけれども、9月現在で11校1844冊配本しているところです。事業の報告については、以上になります。

次に、図書館の利用状況につきましては資料2を御覧ください。平成25年度から5年間の4月から9月について利用状況を比較した表にしております。上から貸出冊数、貸出

人数、入館者数、新規登録数としております。

平成 27 年度につきましては、8 月末で図書館を閉館しまして、9 月 10 日から臨時図書館を開館しましたので、9 月が極端に少なくなっているのはそのためです。貸出冊数、貸出人数、入館者数は、平成 25 年度から減少傾向にありまして、平成 27 年度から何とか横ばいということで、平成 29 年度は平成 28 年度と比較してわずかに増えているかなといったところでございます。逆に新規登録数については、リニューアルオープンした平成 28 年度が多く、今年度がそれに続いているところです。昨年度は 8 月に交流館オープンを機にキャンペーンを行いましたので、多くの方に登録していただいたかなというふうに思っております。2 枚目につきましては、半年間を合計しましてグラフにしたものでございます。以上が利用状況でございます。

(会 長)            ありがとうございます。それでは資料 1 にあります 4 月から 9 月までの前半の事業報告の中で何か質問、意見等ございましたらお願いしたいと思います。行事に参加、参画された方なども、こんなことを思いました、あるいはこういうことができたと思いますというような意見等もよろしいかと思っておりますので、どうぞ出していただけたらと思います。どなたからでも結構です。

(渋田委員)        8 月にありました小学生向けおはなし会ですけど、内容としては絵本とか、ストーリーテリングだけでしょうか。ブックトークとかもあったのでしょうか。

(事務局)            内容としましては、絵本の読み聞かせ、大型絵本の読み聞かせです。ブックトークとか、ストーリーテリングはここではしておりません。

(会 長)            いいですかね。ほかにございましたら。はい、どうぞ。

(石丸委員)        9 月 30 日の英語でおはなし会です。87 名とおっしゃいましたが、こがめルームにそんなにいったのかと思いました。どのような年代の方が参加されたのか、内訳がわかりますか。もしわかれば教えてください。

(事務局)            内訳の人数はわかりませんが、結構小さいお子さんも来られていましたし、小学生も来ていたという感じです。

(会 長)            はい、よろしいですか。

(石丸委員)        参加者がすごく多かったということで、要望、ニーズがあるということだと思いますが、お聞きしたいのは、なぜ「英語で」されたのかということです。企画意図を教えてくださいました。お願いします。

(事務局)            英語のおはなし会を企画したのは、いろんな方が古賀市にいらっしゃいます。外国からいらしている方もいらっしゃいますし、今外国語も学校で授業として入ってくるということもあります。いろんな方に楽しんでいただきたい、子どもさんにも楽しんでいただ

きたいと思います。図書館にも外国語の絵本がたくさんありますので、そちらのほうも利用していただきたいということで開催をしたところですが、こんなにも盛況になるとは思いませんでした。でも、来られた方から、「今後も開催してください」、「内容が良かったです」など、本当にたくさんの意見をいただいたので、今後の参考にしていきたいなと思っております。

(会長) 小学校はこれまでは外国語活動が5、6年生だったのですが、今後3、4年生から強化されます。そういったことについて、橋本委員さん何かございますか。

(橋本委員) 外国語活動がプラス15時間で実施されます。図書館でも外国語、英語に親しむ会を持っていただくということは、学習指導要領改訂に向けて非常にありがたいことです。ご協力に感謝いたしております。興味を持つ子がまずは増えてくれればと思っております。

(会長) こんなに参加が多いということも、興味を持つという意味の現れもあるかもしれませんが、古賀市で教えていただいている先生方や、地域の方に大いに参画していただくということは良いことだと思いますね。

(副会長) 私も英語でおはなし会がこれだけ盛況だったのはすばらしいなと思います。聞きに行くのはためらうような感じもあるかと思いますが、大変意外でした。他の図書館でも、外国語でのおはなし会はよく行われていますね。アジアの方からたくさん今いらっしゃっていますので、「アジアの言葉でおはなし会」というおはなし会もあります。単に言葉の学習というよりも国際交流というか、子ども達の敷居が低く、いろんな方ともお友達になりたい、聞いてみたいという好奇心もありますので、なかなかいい企画だと思います。

前半の事業で、7月30日に東医療センターとの連携講座がありましたね。こういう講座が医療のお話だけになると、病院の話になってしまうものです。しかし、私聞きに行きましたら、東医療センターの中のがん支援センターの取組をお話しされる中で、古賀市立図書館との連携といったところもきちんと御紹介されておりました。こういうお話を聞きながら、図書館の利用を紹介していただいたり、図書館でもがんについてのコーナーを設けていますよといったことを出せるのは非常にいいなと思います。広がりが出てくるのではないかと思いますし、図書館の発信力が十分発揮できたのではないかと思います。

これは野菜づくり講座についても、ルーラル電子図書館が古賀市立図書館には導入されていますので、使い方の紹介があったということは非常に素晴らしかったというふうに思っております。

(会長) 何も文学だけが図書館ではありませんから、幅広い形で生活に関わって学ぶというのが大事だと思います。はい、村山委員さん。

(村山委員) コスモス文庫の立場から、7月23日のおはなし会スペシャルについてお話ししたいと思います。私もおはなし会スペシャルにコスモス文庫の代表として参加したのですが、他の文庫の皆さんが大変熱心に準備なさって、すばらしいおはなし会をしておられるわけですが、もっと来ていただけたらというような思いでございました。しかし参加数を見てみると、

多い方なのだなと思って、意外な気がしました。

それで、今私にできることと言えば、やはり地域でもう少し、「行きましょう」というような案内をすとか、声かけをすということが大事だったと反省しております。この数字を少しでも上げることができるよう、来年は、地域で人を集めるようなことをしてみたいと思います。以上です。

(会長)            ありがとうございます。これは私も参加させていただいたのですが、本当に子ども達の目が輝いて楽しく参加していました。「今年は少ないのかな」と思いましたが、今言われたようにこんなに来ていたんだなと思ってですね。もう少し増えるといいなと確かに思いますね。

                  檜山委員さん、サンコスモ古賀で行われているセカンドブック、ブックスタートの様子など、同じ建物の中ですが、いかがですか。

(檜山委員)        同じ館内ではあるんですが、そちらのほうの様子を知る機会は今までに持ったことがなくて残念です。申しわけありません。

(会長)            私は、ビブリオバトルなどの実践を大学の学生にもさせています。ビブリオバトルでは1番いいと思う本を皆さんに紹介します。人数が足りないから、学生に「あなたやって」と言ってやらせたことがありましたが、学生は最初「いやだ」と言っていました。しかし終わってみると「やってよかった。非常に勉強になった。読んだことを皆さんにどう伝えていくのか、もう一度読んでしっかりと考えていくという機会を与えていただいた」と言っていました。中学生でも、小学生でもできるんじゃないかと思います。ブックトーク、あるいはビブリオバトルも、する機会というのが大事じゃないかなと思います。

                  ほかに人数的なことも今出ました。読書ノートもたくさん、600冊という話がありました。まだこれから後半、10月以降がありますけども、こういった方向でこれからも充実した事業を進めていきたいものだなと思います。

                  次に資料2ですが、そういったことを受けて、図書館の利用状況を一覧表として過年度と比較しながら出していただきました。このことについて、少し話を進めていきましょうか。意見、質問等何か、あるいは確認事項がもしございましたら。

                  先ほど、平成27年度はリニューアルの関係があったようですがけれども、平成28年度から今年度は、同じ時期においては少し伸びたかなというところも見えてきたようです。平成25年度当時から比べればまだまだかなというところも確かにありますけども。数字だけが全てではないでしょうけれども。

                  内容的なことも含めて、考えるところ、疑問、または、質問等ございましたらどうぞ。

(渋谷委員)        入館者数というのはどうやって調べているんですか。

(事務局)            図書館の入り口のところにゲートがあるんですけども、入ってこられる度に人数をカウントするようなシステムで把握しております。

(会長)            私実は協議会が始まる前に聞いてしまいました。入館した時にカウントして、出る時は、

カウントはしないような仕組みだそうです。そのかわり数人一緒にどっと入ってこられると、チェックがうまくいかないんだそうです。これは本を借りる、借りないではなく、入って本を見てすぐ出る人も入館者になりますし、雑誌を見て新聞を読んで帰る人も当然入館数になりますよね。図書館を利用された方ということになりますけど、そのことと、貸出冊数、人数等を比較しつつ、様子が見えてくるとは思います何かありましたら。河村委員さん、何か。

(河村委員) 事業報告の中になりますがお話を伺っていて、非常に多彩な、質の高い楽しい事業をたくさんされているわけですね。私は、統計の数よりも事業の充実度のほうがよほど大切なことで、ある意味では、数がぐっと落ちるようなことがなければそこそこでもいいと思います。「それよりも、こちらを見てください」というような感じで、本当に楽しい事業がたくさん組まれていました。

先ほど申し遅れたんですが、4月23日の子ども落語に参加しました。アマチュア落語家とはいえ、ほとんどプロのレベルで、しかも紙切りもありました。もともと日本文学の中で「物語る」、「物語り」ということがあって、人に対して語りかけることの楽しさや大切さ、その原点の一つが落語の中に凝縮されているようなものです。テレビとは違い、実際に至近距離で語りかけられるところ、子ども達も、私自身もとても楽しませていただきました。結論としては、数はそこそこいけば大丈夫、これだけ内容が充実しているんだから、本当に素晴らしいことだと思っております。

(会長) ありがとうございます。私も年に何回か、粗忽家酔書さんの落語を聞きます。宗像落語協会の方で、高校の先生なので、日曜日ぐらいしか出られないということです。私はサロンとか敬老会で呼ぼうとしたら、平日はだめですとおっしゃって。紙切りなどもされて、本当に言われた通りプロに近いですね。落語絵本というのがありますけれども、広げていくということも大事ですね。今言われたようにとても大事な企画、良い発想じゃないかなと思います。

今言われた大事な指摘ですが、資料1の参加者数、参加する子ども達、大人の方もそうですけど、実際こうやって参加者を広げていき、図書館のあり方、図書館の大切さ、重要性をこういうことを通して、高めていく認識していくということはとても大事でないかということですね。そのことは本当に私もそう思います。利用状況の数字だけでいくと減ったとか増えたとかありますけども、そんなに心配する、一喜一憂することではないのではないかという指摘がありました。他に。

(副会長) 私も多彩な事業が組まれているところが非常に素晴らしいと思います。特色がもっとアピールできたらなと思います。せっかくされている事が、場合によっては表の中で埋没してしまって、今年新規にこれだけ立ち上げられたというのが利用者の方があまりピンと来られていなければ、とても残念に思いますので工夫が大事かと思います。

数字のことですけども、「前に比べると減ってきたけれども、昨年度から比べると下がりまらなくなっている」というお話がありました、私は横這いというのは非常に大事なことだと思います。長期的に減っていくのは困ったことだと思いますが、下げ止まりになっているということは、やっぱり一つの転換期かなと思います。



その中で注目するのが新規登録者の数です。キャンペーンをされたということで、平成 28 年度非常に増えています。ちょうどリニューアル開館されたときと重なっていると思うんですけども、一定の効果があるんじゃないかなと思います。

私はいろんな方に「利用カードをつくったらとても便利ですよ」と言うのですが、「どんなふうにしたらいいかわからない」と言う人もあるんですね。「図書館に行けばちゃんとわかりますよ」と言うんですけども。図書館のホームページから入っていくと、利用者カードをつくることのメリットとか、いろんなことがわかりますよね。例えば広報こがの図書館のお知らせのページ等を使って「利用者カードは図書館に来たらこんなふうにしたらすぐ出来ます」ということを市民の方々にアピールすれば、またちょっと違うかなと思います。一石投じられた効果は、きちんと出ているかと思います。

一定の下げ止まりになったということは、今大事な時期に来ていると思います。下がっていかないということが大事です。上がっていくというのは難しいんですけども、この状態を少しでも良くする工夫はできるんじゃないかと思ったり、この数字が物語っているように、一定の効果があったんじゃないかと思っております。

(会長) 大事な指摘をありがとうございました。本当に素晴らしい事業をされているということ、市民の皆さんへのアピール、報告あるいは案内に結びつけていくことが大事ではないかということです。

現在、新聞購読者が減ってきているという現実があります。実は私の娘の家庭でも「新聞もうやめようかと思っている。テレビで、スマホ、パソコンで情報はいくらでも得られる。タブレットでやれる。別に買う必要ない。」などと言うんですね。

そういう状況の中で、御指摘にあったような下げ止まり、一定の水準が出ている、いや若干増えているというのは、ある意味では逆にすごいではないかと思ながら今お聞きしていました。足を運ばれるだけでもいいわけですけど、とても大事なことだろうと。

その一つのこと、自慢してもいい前半のいろんな行事、数字もそうですけれども、参加数、内容に取り組んでいるんだという、自負といいますか、自慢されて良いんじゃないかなと思います。本当に事務局スタッフの皆さんに頭が下がるところでございます。

2枚目も、今のデータをグラフ化されていますけど、何かありましたら。

(檜山委員) グラフのことではありません。今日はここに伺ってこのことを絶対言おうと思っていました。今、図書館まつりの「本に恋する季節です」というポスターがサンコスモ古賀の入ったところに貼ってあります。ことちゃんの絵を見たときに「素敵だなあ」と思いました。「あれ、どんなことだろう」って立ちどまって、「今日来たら絶対言わなきゃ」と思っていました。こんなところで言ってしまうってすみません。啓発というところで、いろいろ工夫されているなというのが、いろんな場で垣間見ることができています。

(会長) ありがとうございました。その他ございますか。

それでは (1) の事業報告に関連することについて、ここで締めたいと思います。

## (2) 古賀市立図書館の今後の運営について

(会 長) 続いて、(2) 古賀市立図書館の今後の運営についてという協議及び報告事項に入りたい

と思います。事務局のほうお願いいたします。

(事務局)

今後の図書館の運営についてです。今年度も半分を過ぎ、来年度に向けて、図書館の運営方針あるいは活動目標に基づきまして、運営について考えていきたいと思っております。来年度に向けては、2点大きく考えております。

1点目は、今年度策定しました「第3次古賀市子ども読書活動推進計画」に基づき、子どもの読書活動の推進に力を入れ、関係機関と連携しながら進めてまいりたいと思っております。具体的には、昨年度から始めたセカンドブック、読書ノート配布、中学生読書サポーター事業、このような事業の充実を引き続き行い、子ども達の発達段階に応じた取組を行っていきたくと考えているところであります。学校図書館支援ということでも、学校図書館開放用の一般図書の配本をしておりますけれども、試行後の意見も反映させながら、学習や、読書支援のための配本についても考えていきたいというふうに思っております。

課題に思っているのが、各学校でしていただいております親子読書会についてでございます。親子読書活動というのは、市内8小学校の中で活動していただいております。保護者と子どもが同じ本を読みまして、読書の楽しさに触れ、感動を共有する、それをもとに親子読書会をつくりまして、各学校で活動していただいております。しかし、時代の移り変わりとともに、少子化、あるいは仕事を持つ保護者が増えまして、年々、会員が少なくなっております。学校によっては、今年度会員が1人もいないというところもあります。今の親子読書会の形を見直す時期に来ているのではないかと考えております。

「第3次古賀市子ども読書活動推進計画」の中では、「家庭読書の日」を設定して、家読(うちどく)を推進していくという記述も載せております。うまく方向転換をしてつなげていけたらというふうに考えているところですが、この辺で何か御意見ありましたら受けたいと思っております。

2点目です。事業もたくさん行っておりますけれども、地域の課題に対応した情報発信の場としての図書館という役割を担いまして、日々の暮らしの中で、役立ち、生涯学習を支援するというような、例えば医療講座の実施等とそれに伴う資料の充実も継続したいと考えているところであります。

課題としては、先ほど、「利用者数、貸出数は減少しても、事業のほうでしっかり来ていただいているというのは、良いことだ」というふうにおっしゃっていただきましたけれども、やはり、全国的に見ていただいても、貸出数等々は減少しているところであります。市民の図書館への登録率についても、平成18年、19年あたりは60%ぐらいありました。平成21年度には40%、平成28年度末には33%というふうになっております。古賀市の公共図書館としまして、市民に来ていただき、利用され、活用される図書館として、不足していることを精査しながら、今後のアピールの仕方について考えていくことが課題ではないかなと思っております。10月を迎えまして、来年度の予算編成の時期でもございますので、今後の図書館の運営に関して、委員の皆様から御意見をいろいろ伺いたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

(会長)

ありがとうございました。2点ばかり、力を入れていきたいということの指摘がありました。1点目は、「第3次古賀市子ども読書活動推進計画」、挨拶の中でも紹介し、言いましたけれども、中身を開くと写真のカラー刷りもあり、本当に読みやすくなっているなど、

作った者、協議した者の1人としても嬉しく思います。この中で、親子読書会活動への指摘がありました。その他の具体化というの、これからこの協議会でもしていくということをおっしゃいました。子どもの読書活動にかかわっての、図書館の進め方を協議していくことをぜひというふうに言われました。また、親子読書会活動について今後、会員数の減という現実があるということで、家読（うちどく）の検討をしていくといえますか、あり方について、そういった指摘があります。

2点目は図書館そのものの情報発信、アピール、広報、そのあたりのことにやっぱり力を入れる必要があるのではないかとことです。まだまだやるべき余地があるのではないかと、そのあたりの御意見をいただければということだと思います。

1点目の古賀市子ども読書活動推進計画を直接協議をしていただいた方も、そうでない方もいらっしゃいますけど、このことについて、でき上がりましたこれを、具体化あるいは実践化していく必要があるわけです。このことに加えて、具体的に、親子読書会活動についても、事務局からも懸念された事項も出てきましたので、何かありましたら。

1点目の件で話を進めていきましょうか。はい、どうぞ。

(渋田委員) 親子読書会の件ですけど、私はやっぱりこれはずっと続けていってほしいと思っています。ここでも何回か言ったと思うんですが、東小は以前は土曜日に実施していて、保護者が仕事が休みの時に子どもを連れてきてやっていました。最近は司書の先生が嘱託になって、勤務形態の件もあったと思うんですけど、ここ何年かは東小でも平日の放課後にされていたみたいです。それだと仕事を持っていらっしゃる方はやっぱり当然参加できなくて減少していくと思うんですね。親子で参加しようという意思がある人達を排除していくと今言われている読書離れがますます進んでいくと思います。

今年度会員がゼロの学校もあったと言われていましたが、まずはその中学校区でまとめて3小学校で一つの読書会をつくるという方法もあるんじゃないかなと思います。そうすると、司書の先生も3人そろわなければならない、今までにない、各小学校で一人の司書の先生がされていた以上のことができるんじゃないかなと思います。そういうのも、念頭に置いてほしいなと思います。

(会長) 学校司書さんは全校1人ずつ配置をされているんですね。けども今のような、司書さんの勤務体系、勤務条件のことや、保護者の仕事の関係からすると、なかなか平日のすぐ終わった後は難しいという中で、中学校校区単位で立ち上げるようなことも一つの方法かなという御意見でしたね。

(橋本委員) 本日お配りしていただいております「第3次古賀市子ども読書活動推進計画」の37ページに、親子読書会ができた経緯が書いてあります。私も、改訂版の計画で、親子読書活動がどんなふうに生まれたのか勉強させていただきました。昭和36年5月に母と子の20分間読書運動が始まり、古賀全体に広がったのが昭和37年ですね。古賀町の時代、母と子の親子読書運動ということで、家庭の中で、読書する習慣が根付いている古賀の歴史が脈々と続いているし、こういう年代がある中でやっぱり、大事にしてきていただいているなと思います。そこでボランティアの皆さんの力を借りたりして読書の古賀っていうのがずっと続いていることは感じております。

先ほど渋田委員さんもおっしゃったように、できる限り、もういないからやめるのではなく、どんな形なら存続が可能なのか探っていく、研究を進めていくというような時に来ているんだろうというのは私も感じております。一昨日、古賀東小学校でも放課後、親子読書会がございました。子どもと親御さんが見えて、本を読み、その本にまつわる体験活動を行うということで、貴重な体験の場、読書を広げる、あるいは将来にわたって読書人になる学校図書館プラス家庭とつなぐという大事な機能、仕組みが長くにわたって保たれています。学校現場としては、年1回ある発表等も含めて、負担感が少ないような運営方法でつないでいただければありがたいなと思っています。

(会長) 負担感の少ない形でということをお願いしました。それから、家読(うちどく)を充実していくというのがベースにあって、学校に来て集まることが無理ならば、回数を減らすなどやり方を工夫し、それぞれの家庭でしっかり進めていく方法がないかと私もお聞きしながら思いました。

月に1回、それも難しいということであれば集まらなくとも、メディアも発達していますので、連携、連絡しあうやり方もあるんじゃないでしょうか。何か月に1回、何かのかたちで集まるというやり方もあるかもしれないし、その地域にあったやり方であればいいと思います。今言われていることはとても大事な活動ですから、これを活動していきたいならば、やれる範囲でこういう工夫していけば、やる方向をきつと見つけだせるんじゃないかなと思いつつ、聞いておりました。

(村山委員) 今の親子読書会の存続についてのお話ですけれども、全く違う話なんですけど、私が住んでいるところのお宮は、300段まではないんですけど、階段があるんですよ。お参りするの、高齢の方は上がれないわけですね。そうすると高齢の方が、このままではお参りもできないから、お神様のほうで降りてきてもらおうということで、下に降ろしたらたたらどうかって言うてあるわけですよ。しかし、今私が思いますに、だからこそ、若い人が上に上がるように促して、そこで存続していくほうが、そのお宮というのはつながっていくんじゃないかと。

違った例なんですけど、状況に合わせていろいろ変えるということは、しかしながらその根本が失われる場合もあります。私としては、合わせるというより何とか一つの学校に一つの親子読書会というのを存続して、先ほどおっしゃったように方法を工夫する方向のほうが、自分の学校にはこのような良いものがあるということで自信にもなりますし、いいんじゃないかなという意見を持っております。

(会長) ありがとうございます。すぐここで結論というわけではないので、どうぞいろいろ出した上で、今後のことを考えていけばいいと思います。

まとめると、今の原点を大事にしていくとかいろいろありましたので、活動内容やいろんな工夫をするということについては必要だと思います。

歴史ある読書のまち古賀というお話がありましたけど、今後このようなことをつなげていくことが、子ども達を本当に育てていくまちになっていく。そのことが大きく言えば古賀市づくりにつながっていると思いますので、一つ一つ小さなことを大事にしていく必要があるんじゃないか、これをもっと市民の方にわかっていただきたいなと今考えています。

わかっていたきたいという事の2つ目に情報発信という話がありましたね。古賀市立図書館をそういう場にしたい。登録率の低迷、若干少ないという指摘がございましたけども、アピールしていき、図書館がさまざまな情報の発信の場という方向でやるにはどうしたらいいか御意見いただきたいということでしたので、何かありましたら出していただきたいと思います。

学校図書館の機能には、読書センター、学習センター、情報センターという機能が三つのトライアングルがあります。同じように、市立図書館として読書センターでもあるし、学ぶ場所でもあると思うんですね。情報が発信できる、情報を得る場でもある。情報というのは、さまざまな形でメディアを使えばいいわけです。そのことを踏まえた図書館づくり、図書館の機能というのがあるわけですけど、その部分だと思うんですが、何かございますか。難しい課題を言われたのかもしれませんが。(3人挙手) 進行としてはうれしい悲鳴でございます。

(石丸委員)       ではお先に。今の、情報発信の場としての図書館というお話とちょっと違うかもしれませんが、先ほどの説明の中で、市民の登録率が33%で、それ以上は上がっていかないというような、減少傾向にあるということのお話をいただいたと思うんです。

質問で、すぐやってくださいという意味ではないのですが、先ほどのお宮の話ではないですけれど、高齢化して図書館に直接来られることも難しくなってくるというのは、今からどんどん起こりうることだと思うんです。移動図書館、図書館バス、そういうものを導入されるようなご検討やお考えはないのでしょうか。

(会長)            どうでしょうか。

(事務局)         具体的には、今のところございません。

(会長)            今日テレビを見たんですけど、九州初で肥後銀行が移動銀行をされているそうです。移動図書館のごとく、なかなか銀行を利用できない、高齢者で動けない方の地域に銀行が地域に行く車の中にATMの装置もあるんですよ。銀行員が女性と男性の方お二人いらっしゃって、カウンターでも、高齢者の方が来て銀行業務、事務をされてありました。どんな仕組みだとかよくわかりませんが、それを今日からスタートしたというニュースが出ていました。図書館の場合は、地域エリアは限定されているものの、山の奥のほうもあるでしょうけど、今まだ予算のこともあるし、市がやるというというのは簡単にいきませんよということですよ。でもそういう発想も大事ですよ。その中で、移動図書館となると本をどういう形で、どのように、本館との関係からしても、予約制でいくのかとかですね。

(課長)            移動図書館という御提案は、ほかの自治体の公立図書館でももちろんあっております。平成27年度から古賀市においては、学校図書館を地域に一般開放させていただきました。あまり利用もなかったということはあるんですが、まず開放したという事実がございます。その中で、地域の方に少しでも本に触れていただきたい。古賀市では、学校図書館小学校8校、中学校3校、そんなに広くない古賀市でございますが、11校の学校の図書館で本が借りられるということで、今年度から、私ども配本を始めさせていただきます。移

動図書館というほど、1軒一軒のお近くには行けませんけれども。今、公立図書館は一つでございますが、地域文庫、そして学校図書館と合わせると、実は古賀市かなりの近距離に本がお手元にあるんじゃないかという考えはございますので、参考までにお話しさせていただきました。

(会長)           ありがとうございます。この資料の1番下の件ではないですか。

(課長)           はい、そうでございます。

(会長)           小学校8校、中学校3校、そういったところから、今のようなことを対応できるんじゃないかという。

(河村委員)       現在、高齢の方も含めての図書館の利用という話題になっているわけですが、私が1番適切かどうかわかりませんが、いわゆる高齢に属するものとして、この図書館協議会に参加しております。私自身も在職中には図書や文献にはもう十分に接してきていますが、退職をした多くの高齢者の方の実態、実際に感じ取る感覚、考えはどうかというのを思っています。実際この年になってみると、今までも十分に本当に本もいろいろな資料も活用させていただいたし、実際に一番大切なのは、健康でささやかでも日常生活をきちんと送ることなんですね。私自身でも、以前ほど、本や文献そのものに対して、そんなにさせていただかなくてももう十分だというような感じがあるんです。それよりも、実態としては本当に健康に、皆に迷惑をかけないように元気に、社会生活、日常生活をきちんと送れるかという感じにだんだんなってきますね。高齢の方に、本がこれだけあるからこれだけしなければとか、そこまで思わなくてもいいのではないかというような実感がちょっとあります。これはなってみないとわからないですね。退職した頃はまだ知識欲というか、本も今までもずっと読んできました。今私が属しているようなサークル活動で、健康的に体を動かすことによって、脳とか精神とかそっちのほうがものすごく大事だというのが実感ですね。我々高齢になったときに初めてわかるのは、知的な世界を十分大切にしてきた者にとっても、そんなにまでこの段階では知的なものは無くても、健康な日常生活がきちんと送れることがすごく大事っていうのが私の実感です。実感を持っている者の一人として、ちょっと一言だけ。すみません。

(村山委員)       私が今かかわっておりますコスモス文庫は、児童の本がほとんどですが、大人の本も用意しているんですよ。そうしましたら、年寄りの方が少数でありますけれどもおいでになります。何を楽しみにしていらっしゃるかというと、本自体もお好きだから来てあるんだけれども、本を中において、話したいと思ってあるみたいですよ。つまり「この本がおもしろかった」とか、「私もそれ読んだことある」とか、「どの本がいいね」とか、そういうことで交流があります。それで、毎週おいでになる方は、「悪いけどね、お父さんと2人になったけど、お父さんとは話すことはほとんどないから、毎週こうやって来て、本を借りて、自分の感想をあなたに言ったりするのが楽しみ」とおっしゃいます。若い頃は、字の小さいものも読まれて、たくさん本を読んでいらっしゃるんですけど、この頃は絵本とか児童文学とかが字が大きいのでそれを見て、「懐かしかったね」とか、お互いに「これおも

しろかったよ」とかいうことを話すのが楽しくって、おいでになっております。それで、この間、「人」って鈴木会長がおっしゃっていました。やっぱり求めているのは「本」というより、「人」かなっていう感じも受けました。もし巡回文庫とか、バスとかでされるとしたら、そこで「どうだったですか」とか「これいいですよ」とか言って話すのが楽しいとかそういう場になれば、結構、楽しみにして出てこられるんじゃないかなと思います。

(会長)            ありがとうございました。

(河村委員)        今のことに関連して、村山委員さんのおっしゃる通りだと思います。私も本を材料にして、個人的に読書会をしたことが数少ないんですがあります。それは結局、本を材料にして、皆で、大人で話をする場を持ちたいということですね。そういう形でできればまだ高齢の方も、本と接するのがぐっと身近になると思いますね。だから実態はありながら、やり方によっては本当にそれを媒介にして、良い社会関係が構築できるという点は非常に大事だと思います。

(会長)            読書、本を読むというのはもともと一人ですが、その感想等を次に広げていくということですね。渋谷委員さんどうぞ。

(渋谷委員)        私は、今回の事業報告にもありましたけど、いろんな行事が全部平日、あるいは土日の昼間ということですね。ということは、やっぱりこういうことを何回もしても増えないということは、違う場所にターゲットを持っていかなきゃいけないと思っています。中でも、中学生、高校生がやっぱり図書館を使えないんですね。土日こういう催しがあっても、部活が1日あっていると使えません。

                  交流館は今、夜10時まで勉強するところがあいていて、中学生、高校生が今いっぱいいます。前回言いましたけれども、金、土、日曜日のどれかを、3年ぐらいかけて、調査のために8時9時まで図書館を開けてもらおうと、交流館で勉強している子たちが、図書館に来て本を読んだり、調べ物ができたりすると思います。新たなところに、ターゲットを向ける、そういう話を話題にのせてほしいなと思います。図書館は6時までなので、塾とか行っていたら6時に帰ってこられないから図書館には全然行けないので、そういうところも考えてもらいたいと思います。小学生とか幼稚園生は、この事業でたぶん結構集まってくると思うんです。高齢者の方も、昼間のほうが出やすいと思うんです。使えない中学生、高校生、あるいは働いている方のために夜講座を開くとか、新たな方法を見つけていったら良いんじゃないかと切に思います。

(会長)            今、ターゲットということをおっしゃいました。中学生は中学校の学校図書館でという部分も、地域のことも含めてあるんですが、高校生あるいは若年層の方々をどう取り組んでいくか、利用してもらおうかとなると、開館時間の延長という話ができましたね。

                  毎日するのか、ある曜日、期間に限るかも含めて。毎日というのは職員の問題、予算の問題が当然出てきますので何か工夫して、また、行事など、中高生あるいは20歳前後の若い人達が、「お、おもしろいやないか」とか「時間的にも行けそう」とか、何か工夫できないだろうかという意見じゃなかったかと思いますね。ただ、予算や人の問題、開館のため

には条例とか規則等もありますし、そういったことをクリアしていかなければならなりません。部長さんや課長さんがいらっしゃるんですけど、予算の問題から市のほうに訴えていくというのを言うには、私達がどう考え、どんな方針を持つか、それがなくなかなかです。何でもいから開ければいいというわけにはいかないわけですから、これまで1年2年やってきたから実績があるというようなことが見えてくるとやっぱり必要なんだとか、アンケートもそうかもしれませんが、いろんなことで考えていく必要があるでしょうね。それに関連でも結構ですが何かありましたら。

(副会長) 時間延長して効果がなかった図書館も実際ありますが、場所とかいろんな条件が関わっていると思います。古賀の場合は、交流館が横にあるという意味では効果が出やすいところじゃないかと思います。福岡都市圏の中でも、毎日というわけにはいきませんが、週末の金曜日は時間延長するとか、季節限定で夏休み中には時間延長しているところもあります。その手前は試行、試しにここだったら多そうだといいところを見込んでやってみる。閉館直後、人数が特に落ち込んでいくような図書館は延長したときにもそんなに効果が見込めない場合がありますね。一度は以前施行されたと聞いていますけれども、古賀の場合がどこに該当するか検討していただいて、試行する時期じゃないかなというふうに思います。そういうことを踏まえて、予算化となるといろんな事も関わってきますので、おいそれと思いつきではできませんが、そういう踏み出しが大事ではないかなと思います。

(会長) ありがとうございます。行政では予算、条例、規則等との関わりがございますので、簡単にはいきませんが、今日のところは、ちょっと一歩踏み出せるといいなあというところまででしょうか。今後の運営について、幾つかの御指摘や意見をいただきましたので、これをもとにまた事務局のほうで検討していただければと思います。

### (3)その他

(会長) (3)その他で、次回でも良いんですけども、ぜひこれを今後検討していただきたいというのをもちでしたらどうぞ今出していただければと思います。(意見なし)

3の協議及び報告事項については終わり、次に進めていきたいと思っています。それでは諸連絡、図書館まつりのチラシ等も出ていますので、事務局のほう説明をお願いします。

(事務局) 事務局のほうから3点お願いしたいと思っています。

1点目、お手元にあると思いますが、「第23回 図書館まつり」の御案内のチラシをお配りしております。イベント等々ありますので、ぜひ図書館のほうに足を運んでいただけたらということで、御案内をいたします。特に、28日には、1枚めくっていただきますと、児童文学作家でストーリーテラーの杉山亮さんを迎えて「ものがたりライブ」を行いますので、ぜひ、御参加いただけたらうれしく思います。まだ席の空きはございます。それから29日、「ビブリオバトル IN 古賀市立図書館」ということで、初めてビブリオバトルを開催いたします。今の状況ですが、バトルさんは5名募集しておりましたけれども今のところ6名、申し込みがあつております。観覧者が50人ということで書いていますけれども、まだ10人もいってない状況ですので、ぜひ、「この本が良かったよ」ということで手を挙げていただける方、ご都合が良ければおいでいただきまして、1票投じていただければ、



ありがたいと思っております。ほかにも、しおりづくり、ブックリサイクル、川柳コンテスト、ぬりえコンテスト、布の絵本展示等を行います。「本の闇鍋」というのも今年初めて行います。本を包んでわからないようにして、表に本の書き出しの一文だけ載せまして、鍋の中に入れてまして、手に取って「どの本が面白いかな」ということで見ていただいて、借りていただく、そういうことも考えておりますので、ぜひ利用していただければと思います。10月27日から29日まで、どうぞよろしく願いいたします。

2点目、議事録の校正についてです。毎回お願いをしておりますが、今回は久池井副会長それから石丸委員にお願いをしたいと思っておりますので、よろしく願います。校正が終わりましたら署名していただいて、返送していただければと思っております。

3点目、次の開催日は、2月の終わり、候補としまして、2月20日火曜日、2月23日金曜日ということで考えておりますので、よろしく願いたいと思います。以上です。

(会長)            ありがとうございます。図書館まつりの件、議事録については久池井副会長、石丸委員さん、すみませんけれどもよろしく願います。事務局のほうから送られますのでよろしく願います。それで次回、2月20日火曜日、23日、2つの案ですけど御都合の悪い日を言っていただけますでしょうか。時間は14時ですね。来年まだずっと先ですけど、火曜日、金曜日、ご都合の悪い日を言っていただけますでしょうか。(火曜日がよいとの声)

(会長)            できれば火曜日という御意見もございますので、20日で行いましょうか。2月20日で記録をお願いいたします。それではこれもちまして、本日の議事は終了いたします。後、進行のほう事務局お願いいたします。以上です。

(事務局)          鈴木会長、議事進行どうもありがとうございました。いろんな意見をたくさん出していただきましたので、今後の図書館の運営に活かしていきたいと思っております。

#### 4 閉会のことば

(事務局)          最後に、閉会の言葉を教育部長の清水よりいたします。

(部長)            会長さんをはじめ、委員の皆さんご協議ありがとうございました。委員の皆様の御意見の中にありましたけれども、図書館を取り巻く環境というのは、逆風に次ぐ逆風というような状態で、なかなか読書人口が上がってまいりません。読書離れといいますが、おっしゃるように高齢化、女性の社会進出、スマートフォンなどのIT機器の発達、そういったものがありつつも、私たちもできる限り読書人口をキープしていこうと努力をしているわけでございます。今回私たちの事業のほかにも、学校での取組であるとか、地域文庫さんなどの団体さんの取組であるとか、そういったところと力を合わせてキープしていきたいと思っております。本日は出していただきました御意見を、できる限り実現に近づけていきたいと思っておりますし、古賀市の図書館は直営堅持でまいりたいと思っておりますので、皆様の御意見をこれからもよろしく願いたいと思っております。ありがとうございました。

(係長)            本日はありがとうございました。お気をつけてお帰りください。